

IPBES 10 総括

京都大学名誉教授
白山 義久

(1) 「侵略的外来種とその管理に関する テーマ別評価」のSPM承認

- 定義に関する、厳しい議論もあったが、何とか承認された。
- WG1の議長を務めた、Doug Bardの貢献が大きい。
- 日本は当該評価報告書作成を支援する「IPBES侵略的外来種評価技術支援機関 (TSU)」を公益財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 内に設置し、報告書作成に貢献してきた。今次総会の閉会全体会合において、これまでの日本の貢献とホスト機関であるIGESに対する謝意が述べられた。

(2) 2030年までの作業計画

- 第11回総会において、「生物多様性と生態系サービスに関する第二次地球規模アセスメント」のスコーピング文書を検討することが決定。
 - <2030年以降の生物多様性条約（CBD）の次の目標を検討するための基礎となる情報を提供する使命
- 二つの新規アセスメントの実施の決定。
- それ以降の作業計画への追加要素については、第12回総会において審議。

(3)能力構築、知識基盤強化及び政策支援

- IPBESのアセスメント以外の機能で、公募によって選ばれた有識者等から構成される「タスクフォース」が担っている。
- 第10回総会の結果、「能力構築」「知識・データ管理」「先住民と地域社会の知識体系」及び「シナリオ・モデル」のタスクフォースの付託事項（terms of reference）が承認された。今後、活動の実施をサポートする「技術支援機関」が公募される予定。
- 政策支援機能の今後の役割について、加盟国等の意見を募る。

(4)有効性の向上

- 2030年までの作業計画に関する中間レビューを行うことが決定された。
- 第11回総会までに内部レビューを実施し、その後第12回総会までの間に外部レビューが実施される予定。

(5) ビューローメンバーの選出

- ビューローメンバーの選出が行われ、国連の5地域区分からそれぞれ2名ずつ、計**10**名が選出された。
- アジア・太平洋地域のビューローメンバーは、ネパール（2期目）とタイ王国（1期目）。
- ビューローメンバーから、**IPBES**の新議長としてデビッド・オブラ氏（ケニア共和国）が選出された。

その他

- (6) 2023-2025年予算
2023年予算は9,071,593米ドル、2024年予算は10,455,858米ドル及び2025年の見込予算は10,202,992米ドルとそれぞれ決定された。
- (7) 次回の総会
第11回総会は、2024年12月10日から16日の日程で、ナミビア共和国にて開催されることが決定された。